

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

楽しさや喜びを味わいながら、いきいきと学び合う児童の育成
～主体的・対話的に学び合う授業づくり（国語科を中心とした）～

＜本年度の学力向上策＞

- 1 主体的な学びにおける指導の工夫
 - (1) 単元導入の工夫
モデル文の提示、学習計画の設定により、学習の見通しとゴールを明確にする。
 - (2) 相手意識・目的意識の明確化
「何のために・どうやって学ぶのか」を明確にする。
 - (3) 振り返りの充実
めあてに沿った振り返りを行い、次時の活動につなげる。
- 2 対話的な学びにおける指導の工夫
 - (1) 話し合い活動における場の工夫
対話的な学びを充実させるために、意図的なグループ構成や、話し合い活動をする人数、机の形を工夫する。
 - (2) 対話における言語活動の工夫
話し合いにおける視点を厳選し、何について話し合うのかを明確にする。
司会原稿等を準備し、課題に沿った話し合いを進められるようにする。
- 3 深い学びにおける指導の工夫
 - (1) 教材、ワークシート等の工夫
習得した知識や考え方を活用できるように、見直しや整理ができるワークシートの工夫をする。
 - (2) 掲示物の工夫
児童が言語活動や問題解決の拠り所とできるように、環境整備を行う。

＜本年度の振り返り＞

- 児童がより主体的に取り組めるような課題を意識して設定できるようになった。
- 国語科以外でも相手意識・目的意識をもたせるよう指導することができた。
- 少人数グループを作ったことで、発言しやすい雰囲気づくりができ、活発な意見交換や意見交流ができた。
- 指導の側面に着目し研究してきたために、やや評価の視点が薄かった。子どもに身に付けさせるべき資質や能力を明確にし、指導と評価が一体となった取り組みが重要である。アクティブ・ラーニングについては、新学習指導要領のポイントの一つであることから、今後も継続して研究していくことが必要である。

